

# 県中教育

## 随想

### 「地域をフィールドとした教育活動に向けて」

県中教育事務所長 板橋 竜男

小学校高学年の頃なので、たぶん四十五年くらい前のことだと思ふ。

社会科の授業で鎌倉時代の学習をしていた。

担任の先生が、「この近くに、鎌倉時代の史跡があるから行ってみよう」とお話しされたので、日曜日にみんなで行くことになった。

場所は、学校から四キロメートルほど離れた場所にある阿津賀志山（厚樫山）の防塁だ。

この場所で、源頼朝率いる幕府軍と、奥州藤原氏の激しい戦いが行われた。

先生の説明を聞いて、防塁の跡に入り、不思議な気持ちになったことを覚えている。

「当時の藤原氏などの武士たちはどんな気持ちで防塁に入ってきたのか、防塁の周りには、南から来る頼朝の大軍を前に、怖くはないか、怖くはないか、様々な思いが駆け巡ったか、この地で八百年前、教科書に出てくるような出来事が、こんなにも身近にあることに興奮した。教科書に書いてあるはずかな言葉が、実は一つ一つに意味があり、深い話であることを感じた。そして、今思うと、頭だけではなく、心でも感じ学んだ瞬間だったと思う。

その後、南北朝時代に北畠親房が立てこもった霊山に行ってみるなど、だんだんと学習することが好きになった。

新型コロナウイルス対応で学校の教育活動が思うようにいかないところがあるものの、昨年度より小学校で、今年度より中学校で新学習指導要領による授業が実践されている。今回の改訂の目玉は主体的・対話的で深い学び、いわゆるアクティブ・ラーニングだ。

現在、各学校を訪問させていただいているが、どの学校も教育活動が制限されている中で、ここまでICTが普及してきたかと思わせるほど電子黒板やタブレットを工夫して使い、学習活動を展開している。机の上に教科書、ノート、タブレットが当たり前のように置かれ、タブレット

が時にはおぼろげに、メモに、ピアノの鍵盤になる様子を見ると、GIGAスクール構想で一番遅れているのは自分だと思ってしまう。

しかし、忘れてはならないことは、主体的・対話的で深い学びの一番最初にあるものは「主体的」である。子どもたちに学ぶことは楽しい、と感じさせるには、幼児期における学びの芽生えから小学校以降の自覚的な学びへの変換を大事にすること、そしてその内発的な学習意欲である。

これは、決してタブレット上でのものではなく、本物との出会いや子どもたちの心が揺さぶられるような体験活動などからくるものが多いと思う。

幸いこの県中地区にも、素晴らしい史跡、文化財、体験できる場所、先端の企業がたくさんある。すべての教科で単元ごとに行うことは無理だが、年に何回かは、子どもたちが本物に触れ、体験することで、自然に知的好奇心が芽生えてくる教育活動が必要だと思う。新型コロナウイルスに対応で難しいことは十分わかっているものの、体験活動や本物との出会いが、その後の子どもたちの一生を左右するのかもしれない。

未だに新型コロナウイルスの感染拡大が収まらず、日夜厳しい状況に立ち向かい、子ども達への感染防止や、創意工夫をして教育活動に取り組んでいる教育現場の園長先生並びに校長先生をはじめ、教職員の皆様に心からの敬意と感謝、御慰労を申し上げます。

さて、石川町は、「町立認定こども園整備基本構想」を策定し、認定こども園建設に向けて準備を進めています。そこで、一番重要である建設場所については、数か所の町有地を中心に検討を進めてきました。候補地選定にあたっては、基本的な視点として、安全性の確保、利便性の確保、有効性・実現性・経済性と、これに加え、こども園周辺の教育環境を重視した候補地を選定基準といたしました。

最終的に町としては、文教福祉複合施設（モトガッコ）や石川小学校、石川中学校、温水プール、武道館が立ち並ぶ文教地域を候補地として決定いたしました。

図書館をはじめ、放課後児童クラブ、赤ちゃん広場、体育館と芝生の広場、遊具が整備され、教育環境には最適な場所です。更に石川小学校とこども園の幼・小連携により、一層の幼児教育の充実が可能となります。

故事に「孟母三遷の教え」という言葉があります。これは、「子どもの教育には、周辺の環境が最も大切である」という意味があります。このことから、将来ある子ども達のために、夢が広がり、可能性が広がる最高の場所を提供することが我々に課された使命だと思えます。

豊かな環境のもと、子ども達が今以上に伸び伸びと遊び、学び、育ち、無邪気な子ども達の声が響き渡るこども園を、目指し、義務教育の繋ぎとなる大切で重要な幼児教育の更なる充実を図っていききたいと考えております。

編集・発行  
福島県教育庁  
県中教育事務所

発行責任者  
板橋 竜男

編集協力  
県中市町村教委連各支会  
県中各地区小中学校長協議会

### 「孟母三遷の教え」

石川町教育委員会教育長 小玉 陽彦



令和二年度「福島議定書」事業学校版  
最優秀賞受賞校の取組

郡山市立片平中学校

郡山市は、令和元年に県内で初めて「SDGs未来都市」に選ばれました。また、郡山市の学校教育推進構想に、学校の教育活動全体を通してSDGsの理解を深める活動が施策としてあげられており、本校でも、誰もができるSDGsとして取り組んでいきます。

一 節水・節電の呼びかけ

手洗い場やスイッチに、節水・節電を呼びかけるポスターを掲示し、こまめに蛇口を閉めることや、教室移動の際には蛍光灯を消すことを生徒に呼びかけました。

また、各月の水道使用量・電気使用量を昨年度と比較したグラフを職員室に掲示し、教職員にも節水・節電への意識付けを行いました。

二 校内環境保全活動

印刷物に裏紙を利用し、紙資源の節約に努めています。また、エコキャップの収集など生徒会役員を中心に通年でリサイクル活動を行っています。



三 校内環境教育

各教科の年間指導計画で、環境教育と関連する単元を選択し、環境教育について重点的に指導しました。また、家庭分野では、環境問題と関連させてエコバック製作を行い、使用するよう呼びかけました。



四 地域連携環境保全活動

本校では、年一回の資源回収を行っています。各家庭に「資源回収のお知らせ」を配布し、新聞紙・雑誌・段ボール・一升瓶・アルミ缶・牛乳パックなど、リサイクル可能なものを集めています。地域の方々が各地区集会所に資源物を持参し、生徒・保護者で学校に運んでいきます。生徒が資源物回収に参加することにより、ごみの分別とリサイクルへの意識が高まっています。

五 SDGs講演会

一般社団法人日本キリバス協会代表理事ケンタロ・オノさんを招き、地球温暖化問題について講演いただきました。キリバス共和国の危機的状況と自分たちができることについて熱い気持ちを伝えていただき、環境保全意識を高めることができました。

福島議定書で定められた温室効果ガス削減に向けて取り組みだ結果、電気や水の使用量が減少しました。環境問題への関心が高まっているので、今後も生徒や保護者への理解を図りながらSDGsの実現に向けて取り組んでいきたいと考えています。



令和二年度ふくしまっ子体力向上総合プロジェクト事業  
「ふくしまっ子元気大賞」優秀校受賞校の取組  
スポーツの楽しさを共有した

船引高校との合同体育祭  
福島県立たむら支援学校

たむら支援学校は、平成二十九年四月に開校して、今年で五年目を迎えました。高等部は、船引高等学校と校舎を共有しながら日々学習に励んでいます。



昨年度、交流及び共同学習の新たな取組として、両校合同体育祭を開催しました。新型コロナウイルス感染症対策を講じながらということもあり、制限が多い中での開催となりましたが、生徒会が中心となり、お互いが運動を楽しくむことができる「フライングデイスク」、「長縄跳び」、「綱引き」、「バケツリレー」、「選抜リレー」の五種目を選定しました。

競技種目が決まると、両校で体育祭に向けた練習が始まりました。本校生徒は、全員で協力して行うことができる「長縄跳び」、「綱引き」を中心に練習に取り組みました。練習を重ね、お互いに声を掛け合いながら、タイミングを合わせるようなことができるようになると、

連続して跳んだり、タイミング良く綱を引っ張ったりすることができるようになりました。持久力が高まりました。船引高等学校では、体育の授業以外にも、多くの学級が優勝に向けて、練習に励んでいました。特に、「フライングデイスク」は、経験のある生徒が少なく、ルールや投げ方を確認しながら、遠くへ飛ばすにはどうすればよいか工夫し、何度も練習に取り組んでいました。

合同体育祭当日は、各種目とも、これまでの練習の成果を発揮しながら、真剣勝負をおして、お互いにスポーツの楽しさや共に活動できる喜びを共有することができました。今後は、合同体育祭だけでなく、オリンピック・パラリンピック競技種目などの体験をおして交流を深め、体力向上はもとより、お互いに協力し合う心やスポーツに親しむ心を育てていきたいと思えます。



初任者紹介 三か月を振り返り返りです

三春町立中郷幼稚園



教諭 松本 光世

四月から働き始め、早くも三ヶ月が過ぎようとしています。憧れの職業であった幼稚園教諭として子ども達と生活できること、そして、生まれ育った三春町で働くことができているのはとても幸せです。

しかし、四月当初は分からないことばかりで不安でした。大学時代の実習が感染症対策のため、十分に行えなかったためです。それでも、先生方に助けていただきながら、さらには子ども達に教わることもたくさんあり、充実した日々を送っています。今後、研鑽を積むべきことは多々ありますが、まずは子どもとたくさん触れ合い、信頼を築いていくことが課題です。先輩職員の子どもの接し方を見て、自分であればどう関わるかを考え実践していきたいと思っています。まだ自分の思いを表すことが難しい子どももいる中で、この先生なら一緒にいて安心できると思うてもらえるような存在を目指していきたいです。

平田村立小平小学校



教諭 福地 源希

たくさんの方に支えていただき、晴れて四月から小学校教諭として働き始めることができました。早いもので、元気がいっぱいの子どもの出会いから三ヶ月が過ぎようとしています。新しい環境に不安を感じていた日々は過ぎ、今は自分の未熟さを痛感しながら子ども達と向き合う日々を送っています。

初任者研修も始まり、慌ただしく過ぎていく時間のなか、机の上に積まれていく書類を見ては自信が持てなくなってきました。そのような中で支えてくださったのは、周囲の先生方と子ども達です。先生方からの様々なサポートは、これからの自分がどのように成長すべきか導く励みとなりました。また、一生懸命取り組もうとしてくれる子ども達の姿に何度助けられたか分かりません。これからも、支えてくださった方々に応えることができよう、立ち止まることなく成長し続けていきたいと思っています。

郡山市立郡山第三中学校



教諭 大田原 美和

四月に郡山第三中学校に着任し、三ヶ月が過ぎました。私は、一年生の学級担任と英語の授業、体操部・新体操部の副顧問を担当しています。赴任した当初は、初めてのことで、不安や困惑することがたくさんありました。

しかし、何とか目の前にいる子ども達の成長を支援したいと思い、クラスの絆を深める学級づくりや、英語の授業スタイルを試行錯誤し、一日一日を夢中で過ごしてきました。今も、職員室でいろいろな先生方に励まされ、初任者研修ではICTの活用などすぐに実践したいと思う多くのことを学びながら、奮闘する日々です。そのような毎日を支えてくださっている先輩の先生方や家族、そして何より、一緒に成長し、頑張っている学年の子ども達に、心から感謝しています。これからも、研修に励み、生徒に寄り添い学び続ける教師として、一日も早く自立できるよう、頑張っていきたいと思っています。

県立小野高等学校



教諭 室井 拓巳

四月に高等学校教諭として小野高等学校に赴任し、あっという間に三ヶ月が過ぎました。全てが初めての経験であり、はじめは不安と緊張の日々を過ごしていました。しかし、先輩の先生方から温かい御支援と御指導をいただき、また明るく素直な生徒たちのおかげで、充実した日々を送ることができています。

初任者研修では、生徒理解について繰り返しお話をいただき、生徒との対話と信頼関係構築がとても大切であることを感じました。生徒はそれぞれ様々な事情を抱えています。一人一人の心に寄り添える教師になりたいと思っています。また、職場や研修等で素晴らしい先生方に恵まれる刺激を受けています。未来の日本を創る子ども達に豊かな人生を歩めるよう、生徒のことを一番に考え、自ら努力し学び続ける教員を目指していききたいと思っています。

須賀川市立義務教育学校 稲田学園



養護教諭 窪木 美香

長い講師経験を経て新たな気持ちで迎えた四月。不安と期待と緊張の中、須賀川市初の義務教育学校として開校した稲田学園に着任しました。長く講師経験を積む中で、自分にとって変わらなかつた思いがあります。それは「学校が大好き」ということです。

「子どもの頃から学校が大好き。それを多くの子ども達に感じて欲しい。元気に笑顔で学校生活を送るため、一人一人の心身の健康を保健室から支えたい。」養護教諭を目指したきっかけでもあります。そして、その思いは、養護教諭として働く日々の中で、「仕事が好き」という思いと重なるようになりました。「誰かのために一生懸命になれる人」私をそう言ってくれた教え子がいました。新しいスタートを切った今、新しい出会いと初任者研修での新たな学びを大切に、誰かのために一生懸命に、そして、子ども達の頑張る姿と笑顔を支えていけるよう、養護教諭として更に成長したいです。

